

D-4

プラに代わる素材を、消費者は
受け入れることができるのか？

浅利 美鈴（総合地球環境学研究所 教授）

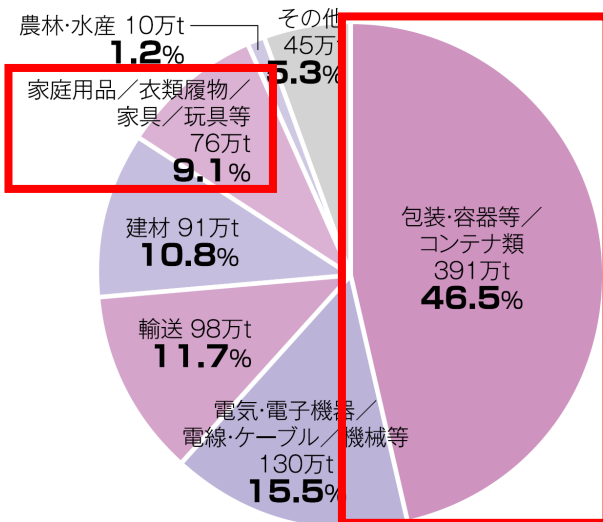
安藤 悠太（京都大学大学院地球環境学堂 特定助教）

研究背景

プラスチック資源循環に向けたマイルストーン達成のためには
幅広いプラスチック製品に対する対策を講じることが必要である

⇒ 使い捨て製品や容器包装だけでなく
消費者が日常的に利用する製品を考慮すべき

国内樹脂製品消費量 841万t
② 国内樹脂製品消費量(841万t)の分野別内訳



生活に浸透した製品
消費者の意識・行動
が対策に直結する

(一般社団法人プラスチック循環利用協会, 2020)

マイルストーン

〈リデュース〉

- ① 2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制

〈リユース・リサイクル〉

- ② 2025年までにリユース・リサイクル可能なデザインに
- ③ 2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル
- ④ 2035年までに使用済プラスチックを100%リユース・リサイクル等により、有効利用

〈再生利用・バイオマスプラスチック〉

- ⑤ 2030年までに再生利用を倍増
- ⑥ 2030年までにバイオマスプラスチックを約200万トン導入

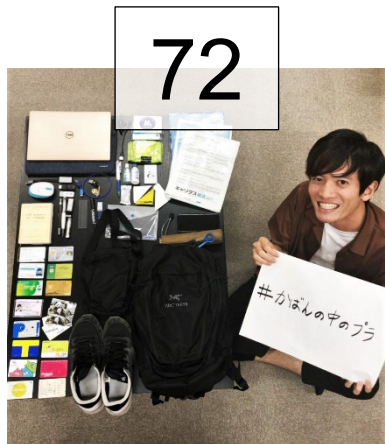
(プラスチック資源循環戦略)

プラスチックとの持続可能な付き合い方を考えるために

現代の暮らしのどこにでもあるプラスチック製品を
消費者の必要性に応じて分類・可視化するツールを開発



- ⇒ 個々の製品または類似した製品群ごとに適切な対策を提言する
- ⇒ 消費者の受容と行動変容を目指す

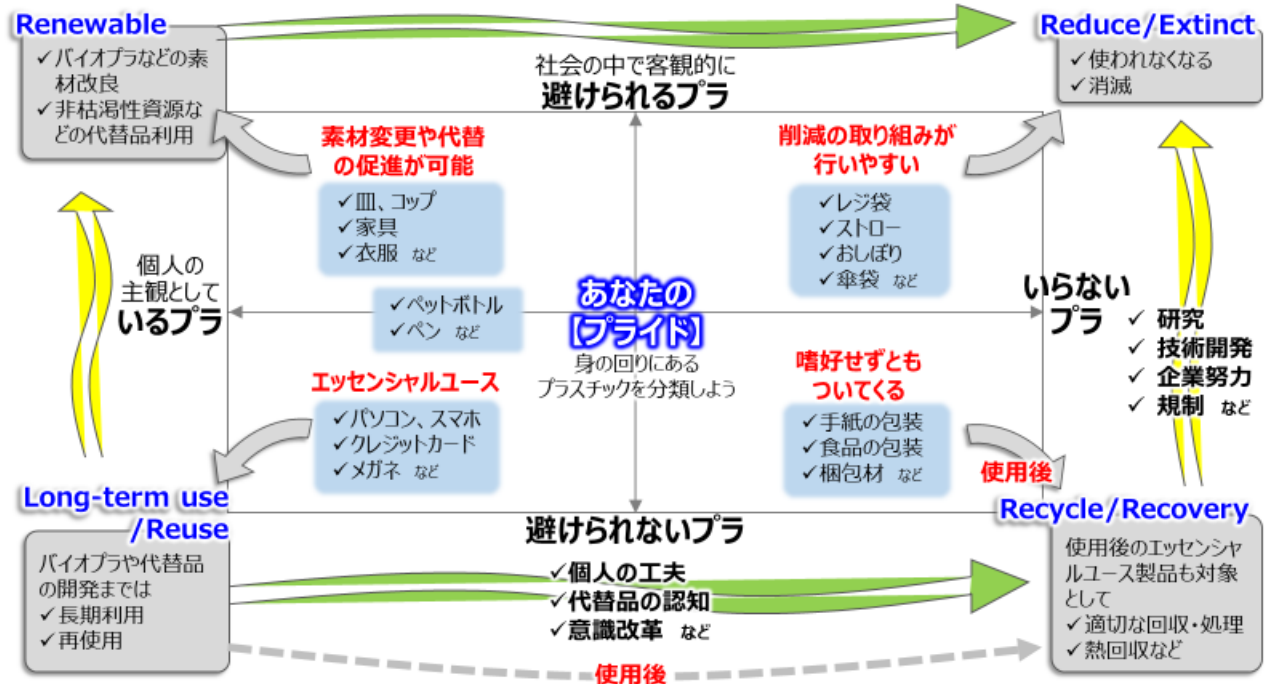


72

#かばんの中のプラ

20人のかばんに
平均82.6個

プラ・イドチャート (プラ製品群分類表)



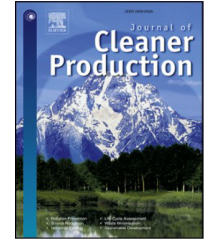
(浅利他, 環境と安全, 2021)



Contents lists available at [ScienceDirect](https://www.sciencedirect.com)

Journal of Cleaner Production

journal homepage: www.elsevier.com/locate/jclepro



Product-based approach to sustainable plastic management focusing on consumers' necessity of 50 daily-use products in Japan

Yuta Ando ^a, Haruki Yokoi ^b, Haruna Masuda ^a, Misuzu Asari ^{a,*}

^a Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto University, Japan

^b Graduate School of Economics, Kyoto University, Japan

<https://doi.org/10.1016/j.jclepro.2023.138234>

製品別の持続可能なプラスチック管理に向けた
身近な**50**製品に対する日本の消費者の必要性の調査

安藤悠太 ^a、横井晴紀 ^b、益田明奈 ^a、浅利美鈴 ^{a,t}

^a 京都大学大学院地球環境学堂 ^b 京都大学大学院経済学研究科

[†] 現・総合地球環境学研究所

本研究は、環境研究総合推進費S-19 テーマ2 サブテーマ(2)「持続可能なプラスチック利活用社会への移行に向けた将来デザイン研究」の助成を受けたものです。

研究目的と大規模アンケート調査の概要

目的：日常的に使用・廃棄する幅広いプラスチック製品を対象として
プラスチックの必要性・代替性に関する消費者意識を明らかにする

大規模アンケート調査の概要

- ウェブアンケート（株式会社ネオマーケティング）
- 期間：2022年3月14日～3月18日
- 対象：日本国内に居住する15～69歳から10,000件
（性別、年代、地域ごとの人口比率を用いて割り付け）

プラスチック製品50製品を選定

排出量の多いプラスチック製品

家庭から排出される製品

- 「京都市家庭ごみ細組成調査」
 - ・ 家庭ごみ中のプラスチック類のうち主な製品
 - ・ その他分類に含まれるプラスチック使用製品

自然界に流出している製品

- 「漂着ごみ対策総合検討業務報告書」
 - ・ 量が多い漂着物のうちプラスチック使用製品

使い捨てプラスチック製品

- 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」
 - ・ 特定プラスチック使用製品として指定された製品
- 「EU Directive 2019/904」
 - ・ Single-use plastic productsとして指定された製品

今後着目したいプラスチック製品

- 浅利らによる先行研究、ヒアリング等で挙げられた製品

プラスチック製品50製品の 必要性に関する消費者意識

• 28製品は**必要**の回答が
55%以上を占める製品群
(容器包装、耐久財、繊維など)

• 20製品は**不要**の回答が
44%以上を占める製品群
(主に使い捨て製品)

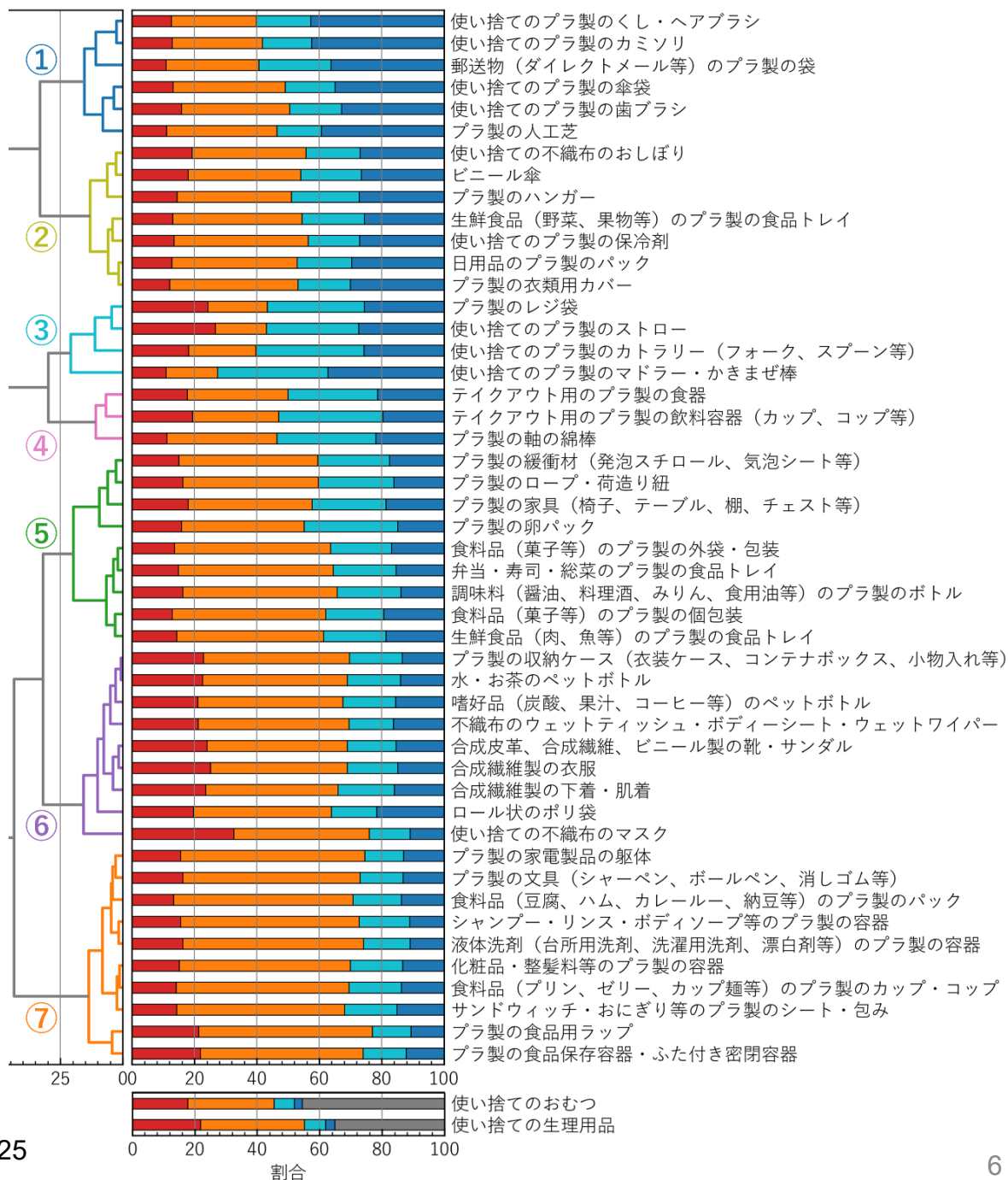
■ 代替品を知っているが、
プラ製のこの製品が**必要**

■ 代替品を知らないため、
プラ製のこの製品が**必要**

■ 代替品を知っているため、
プラ製のこの製品は**不要**

■ この製品そのものが**不要**

■ 使用対象者ではない
(「使い捨てのおむつ」
「使い捨ての生理用品」のみ)



プラスチック製品の必要性が低い製品群（クラスター①～④の20製品）

クラスター① 「この製品そのものが不要」が最多

「代替品を知らないため必要」も一定数を占める

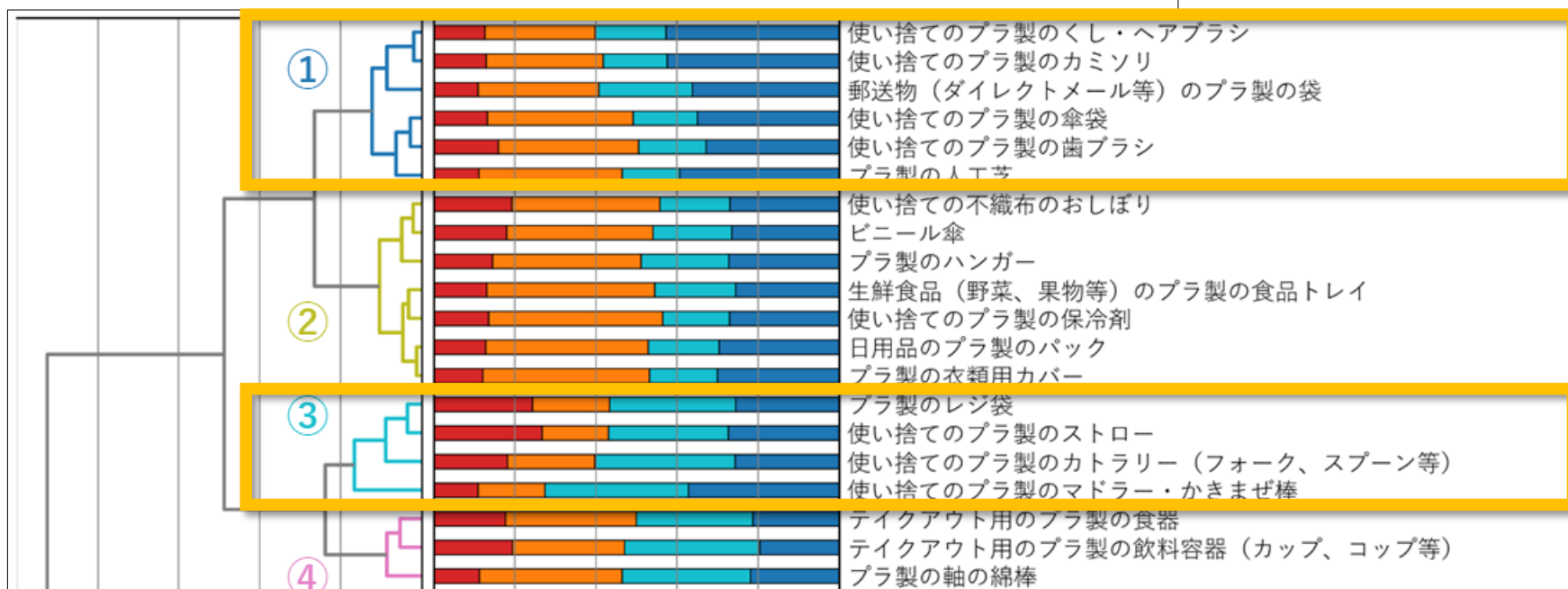
⇒ 代替品の認知・普及による意識変容が必要

クラスター③ 「代替品を知っているため不要」が最多

「代替品を知っているが必要」も多い（レジ袋、ストロー）

⇒ 代替品認知度は高いが受容性が人により異なる

- 代替品を知っているが、プラ製のこの製品が**必要**
- 代替品を知らないため、プラ製のこの製品が**必要**
- 代替品を知っているため、プラ製のこの製品は**不要**
- この製品そのものが**不要**

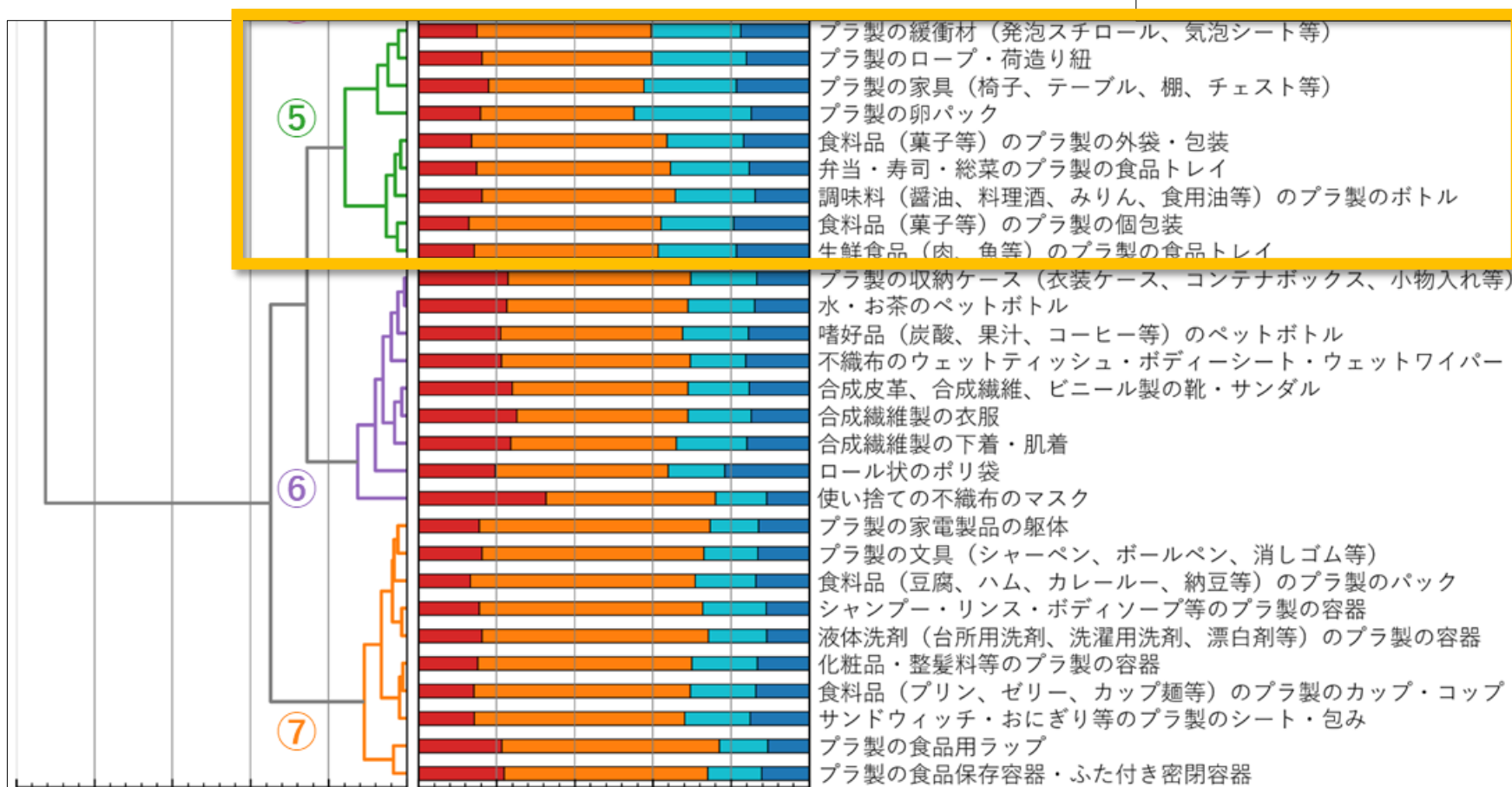


プラ製品の必要性が高い製品群（クラスター⑤～⑦の28製品）

クラスター⑤

「代替品を知っているため不要」が他よりもやや多い
 ⇒ 代替品のさらなる認知拡大による削減効果が期待
 （緩衝材、卵パックなど）

- 代替品を知っているが、プラ製のこの製品が**必要**
- 代替品を知らないため、プラ製のこの製品が**必要**
- 代替品を知っているため、プラ製のこの製品は**不要**
- この製品そのものが**不要**



大規模アンケート調査から他にわかったこと

- クラスタ①～④の使い捨て製品のほとんどで、必要性と年齢に相関あり
⇒ 20代が**必要**の回答を最多で選択、60代が**不要**の回答を最多で選択
- プラスチック問題に関心がある人は、「**代替品を知らないため必要**」を選択するよりも「**代替品を知っているため不要**」を多く選択
- アンケート結果を用いた削減可能性の推計
 - ・ 今回対象とした**50製品**の国内消費量は**362～400万トン/年**と算出
 - ・ 「**代替品を知っているため不要**」「**この製品そのものが不要**」と答えた人が使用削減したと仮定すると、最大で**113～127万トン/年**の削減
 - ・ 「**代替品を知らないため必要**」と答えた人が適切な代替品を入手可能になれば、最大で**168～184万トン/年**の削減

EU・フランスの歯ブラシ売り場（2022年10月）

パリ中心部のドラッグストアで見つけた環境配慮型歯ブラシの例
⇒プラ規制対象外にもかかわらず様々な環境配慮オプションがある



ヘッド交換式

木製／竹製の柄

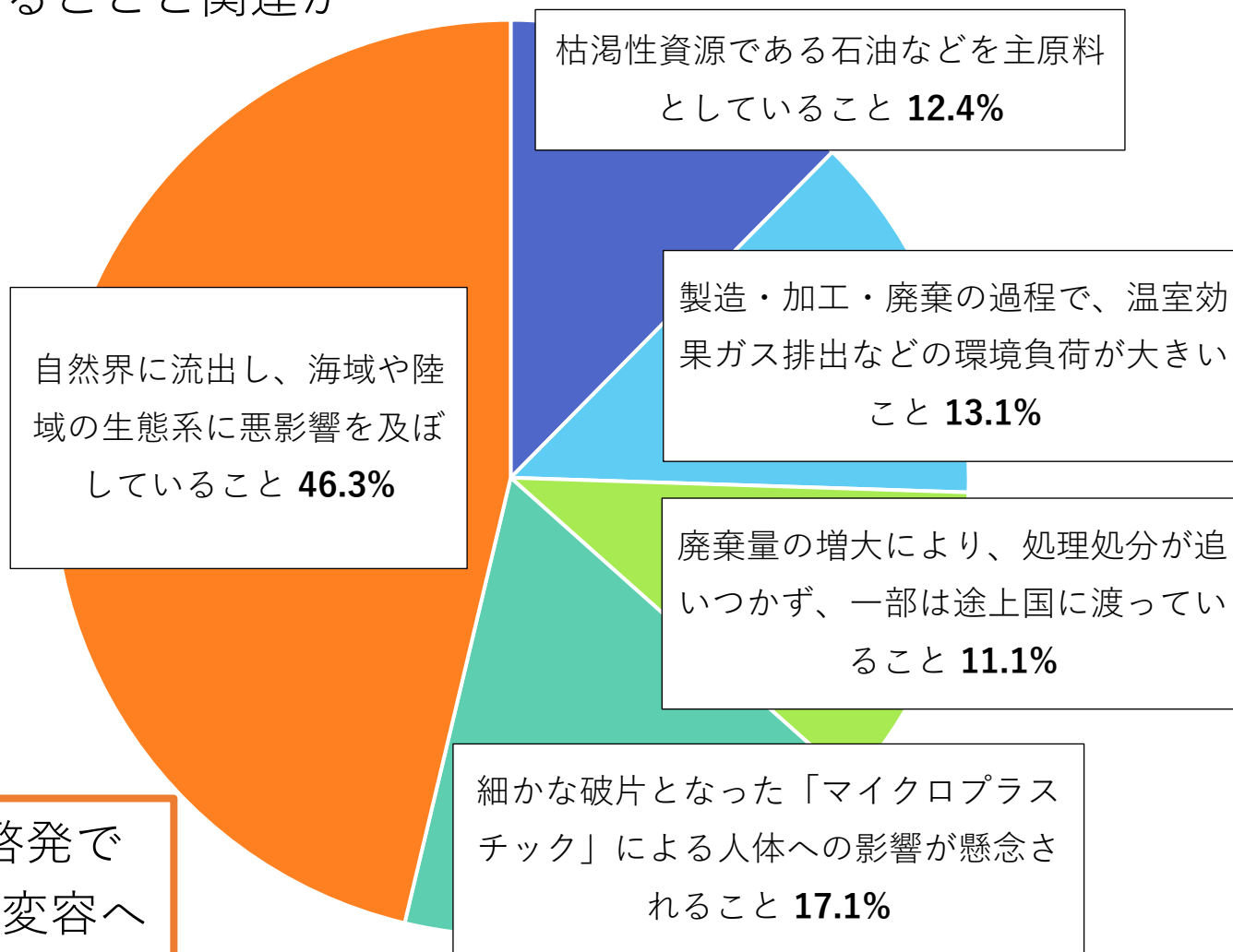


再生プラスチック製の柄

一般的な製品

「プラスチックが抱える諸課題のうち最も重視する課題」の認識

⇒ 海洋プラスチックごみ問題が現在に至る社会問題化のきっかけとなり
注目を集めていることと関連か



効果的な発信・啓発で
納得感醸成と行動変容へ

ごみゼロ共創ネットワーク

大阪・関西万博に向けた資源循環分野のレガシーづくり！

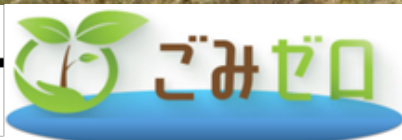
窓口：京都超SDGsコンソーシアム（TEAM EXPO 2025 共創パートナー）



清掃活動アプリ
お試しください！



京都超SDGs
コンソーシアム



Android
Google Play



iOS
App Store



TEAM
EXPO
2025

つくろう。みんなで。
“共創プログラム”



関西広域連合
UNION OF KANSAI GOVERNMENTS



大阪府立総合地球環境学
研究所

意識・行動変容を目指して 今後の発信とイベント

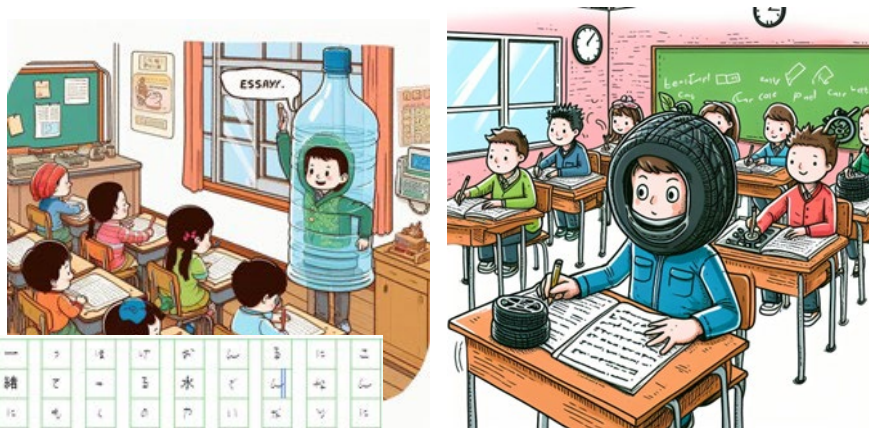
2024年3月22日(金)～24日(日)

「アップサイクルでSDGsフェス」

2024年5月25日(土)

体験型ショーケース「プラに生まれて(仮)」公開

@京都里山SDGsラボ ことす



様々なデザイナーが参加するWSを実施▼



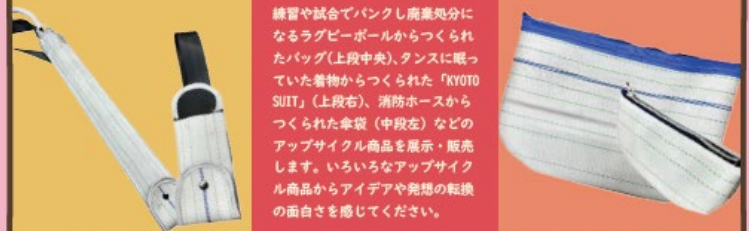
どんな部屋を体験すれば
地球の味方である意識が持続するか？



2024年3月22日(金) - 24日(日)

アップサイクルフェス開催!

in
京都里山 SDGs ラボ ことす



練習や試合でバグし廃棄処分になるラグビーボールからつくられたバッグ(上段中央)、タンズに眠っていた着物からつくられた「KYOTO SUIT」(上段右)、消防ホースからつくられた傘袋(中段左)などのアップサイクル商品を展示・販売します。いろいろなアップサイクル商品からアイデアや発想の転換の面白さを感じてください。



本フェスでは、アップサイクルを楽しく学び、体験する企画とあわせて、アップサイクルが持続可能な社会 (SDGs) の実現に向けて果たせる役割や、そのための課題を抽出していくことを目指し、セミナーや展示を行います。皆様のご参加をお待ちしております!

出品作品募集します!

詳しくは、mezase530@gmail.com までお問い合わせください。

2024年3月6日(水)・7日(木)に京都市勧業館みやこめっせで開催される第5回京都国際ナショナル・ギフト・ショー 2024でもアップサイクル商品の展示をいたします。特別なギフトセットも販売予定ですので、ぜひお越しください。